

2025年度
一般推薦入試
(外国語学部 英米語学科)
小論文 (80点 90分)

次の文章は、「文化と言語」に関するものである。文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

第1問 この文章を250～300字でまとめなさい。

第2問 この文章の内容について、あなたはどのように考えますか。筆者の見解をふまえ、自分の意見を550～700字で論じなさい。

【注意】

- ① 解答は別紙の原稿用紙に記入しなさい。原稿用紙は2枚配布されます。1枚目に第1問の解答を、2枚目に第2問の解答を記入してください。
- ② 問題用紙の余白をメモ欄として使用することができます。ただし、解答は必ず原稿用紙に記入してください。問題用紙に記入しても採点の対象とはなりません。
- ③ 解答の中で英単語・英語表現に言及する場合は、1マスにつきアルファベット2文字程度を目安としてください。

「文化」 culture は「自然」 nature の対概念です。自然状態の土地を耕して、作物を育てる「栽培」 culture が元の意味です。自然状態のものに人間は様々に手を加えて、世界を自分たちが住みやすいように変えてきました。

どんな動植物が手に入りやすいのか、どんな社会を構成すれば幸福な暮らしができるのかを考えて、「人間が自然に手を加えて」工夫してきた集大成が文化なのです。そして、その営為を反映した体系が言語です。

人間は無限に多様な現実世界を自分たちの関心にあわせて理解しようとしします。もちろん一番の関心事は生きていく上にかかせない食べることでしょう。何が食べられるのか、それはどうすれば手に入るのか、そうした価値観にそって、動植物を区別するようになります。

例えば、家畜のオスとメスの区別が重要かどうかは文化の違いによります。牧畜民族にとってそれは死活問題でしょう。他方、農耕民にとってその重要度はずっと下がるでしょ

う。動物の雌雄の区別に日本語は無頓着です。ミルクを飲まない民族にとって、牡牛か牝牛かは大した問題ではないのです。だから、日本人にとっては、cow でも ox でもどちらでも大差ないのです。

「牛」ばかりでなく、「鶏」についても日本では通常オスとメスの区別をつけません。ところが英語ではそうはいきません。庭を走り回っているトリを見れば、cock なのか hen なのかを区別しなければなりません。ヨーロッパ語で広く見られる男性名詞と女性名詞の区別は、家畜の雌雄の分類が極度に習慣化したものだとも考えられます。ともかく、牧場で角があり、ミルクを出してくれる家畜を見ると、日本人はオスとメスの区別なく「牛」だと思いますが、欧米人は「メスの牛」だと思ふ。わたしたちの物の見方はある意味で「洗脳」されているわけです。もうちょっと穏やかな表現をするなら、フィルターがかかっている、チャンネル化されているといってもいいでしょう。

年齢差もよい例でしょう。英語で「兄」は brother で、「姉」は sister です。しかし、この語は「弟」や「妹」も示します。つまり、英語で年齢差は考慮されないのです。older とか、younger をつけて、年齢差を表現することは、どうしても必要な時を除いて、通常行われません。このことは英語に限らず、ヨーロッパ語では一般的にみられます。

他方、日本語や中国語でこうした区別は重要です。それは礼節を重んじる儒教精神と無関係ではないでしょう。一つ年が違うだけでなぜ敬わなければならないのか理由はさておき、礼儀を重視する伝統は今でも健在です。先輩・後輩の区別が厳しいのは体育会に限ったことではなく、会社や様々な組織の中でも生きています。年功序列という制度もあります。先輩に「タメ口」をきいて怒られたなんてことは英語文化ではありえません。

「わたしたちがもっとも自然で日常的でいるとき、わたしたちは同時にもっとも文化的なのである。〈中略〉とポール・ウィリス^{*注1}は述べています。私たちの日常生活は自然なものではなく、「学習」され、「構築」されているのです。

したがって、文化研究とは、芸術や文学など何か私たちが高尚だと思っているものばかりでなく、マンガやショーなどのいわゆる大衆文化、スポーツやレジャー、衣食住の日常生活まで、人間のあらゆる知的営みとその対象なのです。近年盛んな「カルチュラル・スタディーズ」ではむしろ「高級文化」は扱われない傾向にあります。

小畑精和『カナダ文化万華鏡―「赤毛のアン」からシルク・ドゥ・ソレイユへ』明治大学出版会（2013）4-6 ページより作成）

*注1 イギリスの社会学者。引用は、グレアム・ターナー『カルチュラル・スタディーズ入門』作品社（1999）11 ページより。